

◆【 漢文 】

〔 学習のポイント 〕

① 国語の中で、最も安定した得点源になるのは漢文。

→ 出題内容が限定的で、コスパよく学習できる。

※「古典文法」と現代文で学んだ「読解力」がベースになる。

② 暗記7割, 読解3割。(現代文:読解10割 , 古文:暗記5割, 読解5割)

→ 語順・句形・語句を理解して覚える。覚えたら, 文は読める。

③ 「慣れ」が肝心。

→ 例文で句形に慣れ, 文章を通して漢文そのものに慣れる。

〔 学習の流れ 〕

① 『 岡本の漢文句法 』

② 『 漢文道場 基礎編 』

③ 共通テスト(センター試験)過去問

① 基本 → ② 演習 → ③ 実戦

所要期間は, 各1ヵ月。

◆【 共通テスト 】

〔 基本情報 〕

・国語は, 今年度から新形式。

→ 新たに第3問として, いわゆる「実用文」が加わる。

・試験時間は, 90分。(従来は, 80分。)

・配点: 第1問(評論文) 45点, 第2問(小説) 45点, 第3問(実用文) 20点, 第4問(古文) 45点, 第5問(漢文) 45点

→ 200点満点: 現代文110点, 古文45点, 漢文45点

〔 テストの特徴 〕

・限られたタイトな時間の中で, 多くの文章・設問を読み解かなければならない。

・一問一問の配点が高い。

・基本的な読解力や知識をベースにしながらも, 共通テスト独自の問題がある。(「複数テキスト」など)

→ あらゆるタイプの問題を速く, 正確に解く力が求められている!

〔 対策 〕

・12月から共通テスト本番までは, 共通テストに比重を置いた学習を推奨。

(もちろん早い時期から対策を始めるのはOK!)

- ・ベースとなるのは、現・古・漢それぞれの学習で培う「基礎力」。
- 過去問演習だけでなく、その他の日々の学習や演習が大切になる。
- ・『共通テスト過去問研究』を中心に過去問を活用した演習を行う。
- ・演習を通して、問題に「慣れる」。そして問題を「分析」し、あらかじめ「解き方」を考えおく。
- ・解き方としては、設問ごとのアプローチや解き順（「漢文 → 古文 → 現代文」の順に解く）、また大問ごとの時間配分を考えておくなど。

〔過去問演習〕

- ・試験の日程から逆算して、過去問演習を行う日程をあらかじめ決めておく。
- その中で、時間と労力の許す限り問題に触れる。
- ・ただ解くだけではなく、問題を分析し、対策を考えることが重要。
- ・演習は何度も行えるように、テキストはコピーして活用することを推奨。

・学習の手順

- ① 時間制限を設けずに、それぞれの大問を個別に解き、分析する。
- ② 時間制限を設けて、それぞれの大問を個別に解き、分析する。
- ③ 時間制限を設けずに、全ての大問を通して解き、分析する。
- ④ 時間制限を設けて、全ての大問を通して解き、分析する。

◆【実用文】

〔基本情報〕

- ・今年度入試から取り入れられる見通しの新たな大問。（第3問、現代文の一種として。）
- ・複数の資料（図、表、グラフなど）や文章から成る複合問題。
- ・探求学習や日常の場面を想定した問題。

〔分析〕

- ・国語全体として旧型式から新たに追加された時間は、わずか「10分」。
- 解き方を考えなければ、時間内に処理することの困難な分量。

- ・あくまでも共通テスト全体の一部であり、配点も20点あまり。
- 未知の実用文に注目し過ぎるよりも、従来の形式の他の大問（180点分）を、10分増えた解答時間で効果的に得点を積み上げる方が堅実。

〔対策〕

- ・試作問題を通して問題を分析し、慣れておくことが必要。
- ただし、本番の入試問題が試作問題の形式通りに出題されとは限らない。
- 過度に恐れ、また対策をし過ぎる必要はない。（他の4つの大問の学習を優先する。）

・大学入試センターが作成した「試作問題」と各社製作の「類題」を活用して、問題に触れておく。

→ その上で、出題される問題はどのような問題であるか、

またどのようにそれらの問題を解けばよいかを分析し、基本的な考え方を用意しておく。

〔 解き方 〕

・基本となるのは、評論文の読解力。(完全に新しい力が必要になるわけではない。)

そこに基本的な図表、グラフを読み取る力、またそれら複数の資料を統合して判断する力などが必要になる。

・解答のポイントは、「 時短 」。

評論文や小説のように全てのテキストを読んで設問に答えるのではなく、

設問が求めていることを踏まえて必要な情報を「 検索 」することが必要。

・解き方の流れ

① リード文を確認して、問題の〈 設定 〉を確認する。

② 複数の資料や文章のタイトルを確認し、〈 共通テーマ 〉とおおよその内容を把握しておく。

③ 設問、もしくは選択肢を確認し、問題の解き方、つまり読解の「 方針 」を立てる。

④ 問題を解くために必要な情報を各資料から「 検索 」し、解答するための根拠を得る。

⑤ 根拠を基に選択肢を正誤判断し、解答する。